ふりがな　　みずおか　ふじお

氏　名　　水岡　不二雄

1. 学歴

1975 年　3 月　立命館大学経済学部卒業
1975 年　4 月　一橋大学大学院社会学研究科入学
1977 年　3 月　同修士課程修了
1977 年　4 月　同博士後期課程入学
1982 年　4 月　同博士後期課程単位取得
1983 年　8 月　クラーク大学地理学部大学院入学（フルブライトプログラムによる）
1986 年　5 月　同より Ph. D.（地理学）学位取得

2. 職歴・研究歴

1979 年 11 月　香港大学文学部地理及地質学系客員講師（国際交流基金専門家，1981 年 7 月まで）
1985 年　2 月　ジョンズ・ホプキンス大学 Visiting Fellow（1985 年 4 月まで）
1985 年　9 月　クラーク大学地理学部 Departmental Assistant（1986 年 4 月まで）
1987 年　4 月　一橋大学経済学部助教授（経済地理学部門）
1992 年　4 月　一橋大学経済学部教授（1995 年より現代経済部門）
1998 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科教授（2003 年より経済地理部門）
1993 年　7 月　香港大学地理及地質学系兼任客員教授（1993 年 10 月まで）
2007 年　2 月　香港科技大学社会科学部客員研究員（2007 年 9 月まで）

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

経済地理学，市場と社会

（b）大学院

都市空間論，産業地理学，経済社会空間論，経済立地論Ⅱ，ワークショップ「市場主義の再検討」

B. ゼミナール

学部前期，学部後期，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部 300 番台科目「経済地理学」では，地理学を空間編成の経済理論と捉える立場に立って，均質な原初的（物理的）空間から不均質な空間編成が生産される「経済・社会への空間の包摂」過程の基本を講義し，その理論を学生に修得させることを到達目標としている。

また，今日のグローバルなネオリベラリズムの展開，ならびにそれを思想化した市場原理主義，そして理論・イデオロギー面から支える新古典派経済学という三位一体のレジームを批判的に分析し，今日の経済・社会の諸

問題を分析する中から，市場に代るオルタナティブなグローバリズムを構想する 200 番台オムニバス講義「市場と社会」をオーガナイズしている。本科目は，学部自己評価の際に学部学生にとったアンケートに基づいて水岡が開講を提案したものであって，学生のニーズに適合した内容の講義が，2002 年度の開講以来，主として前期学生の強い関心を集めてきた。

大学院の講義においては，履修する学生の要望とバックグラウンドを考慮しつつ，海外の経済・社会地理学における最新の研究動向ならびに現代の世界各地にある諸現実をふまえ，院生が主体的に自己の理論的・実証的研究テーマをもち，空間理論を創造的に発展する能力を身につけさせることを到達目標として講義している。また，学部の「市場と社会」に対応する大学院科目として，ワークショップ「市場主義の再検討」を開講し，市場経済をより大きな社会科学全体の立場から相対化することに研究意欲をいだく大学院生の研究発表と議論の場としている。

学部のゼミ活動は，基礎ゼミ学生，3・4 年ゼミ学生全員合同で行っている。1992 年以来ほぼ毎年，夏休みを利用し学生をフィールドワーク中心の短期研修（「巡検」と呼ぶ）を実施し，海外の諸地域を直接学生に経験させる中から，各国経済・社会の状況はもとより，グローバルとローカルとの関係や，建造環境をはじめとする経済・社会の空間性等に新たな認識の地平を獲得させることをめざしてきた。1993 年度以来の行先は，香港とビルマ(1993),チェコ・スロバキア(1994)，韓国(1995)，バルト三国・ケーニヒスベルク（1996），タイ・ラオス（1997），カナダ極北部（1998），中国南部・ベトナム（1999），バングラデシュ・西ベンガル（2000），欧州の地域通貨（2002），中央アジア（2003），ブラジルとボリビア（2004），旧ユーゴ諸国とアルバニア（2005），樺太/サハリン等（2006），ナイジェリアとカメルーン（2008），満洲と極東ロシア（2009），対馬と韓国（2010），ニュージーランド（2011），ドイツのエネルギー政策とウクライナ（2012）である。夏学期は，巡検訪問先の歴史や経済・社会の現況，等に関する文献を講読する。冬学期には，学生に巡検報告原稿を発表させて現地視察の内容を素材にゼミ討論を重ねた上，水岡が学生から提出された報告書等に修文を加えた上で，部門で独自に運営しているサーバからインターネット上に一般公開している（http://econgeog.misc.hit-u.ac.jp/excursion/）。卒論は，長さ 4 万字以上，自己の創造的論点や地域調査の成果を提示するオリジナルかつ高度な内容のものとすべく指導している。

これらの，ゼミナールの指導をもとに学生が主体となってまとめた研究成果は，1996 年以降継続的にウエブサイトに海外巡検報告として公開され，その斬新で高い情報価値などから社会一般に高い関心を呼んでいる。

学生独自の研究成果も，高い水準を目指して指導を行い，数々の成果を生んでいる。2000 年ならびに 2007 年春に学部を卒業した学生の学士論文は，若干のリライトの上，学術誌『空間・社会・地理思想』5 号ならびに 15 号に掲載された。他の卒業論文についても，現在学術誌に投稿準備中のものがある。また，基礎ゼミ学生が提出するタームペーパーは，学内誌『一橋』でしばしば入選しており，2009 年度に，満洲への巡検をもとにまとめられた建造環境の歴史性に関する学生の論文が A 部門入選を果たした。

大学院のゼミナールでは，現地でのフィールドワークなどをもとに，国際学会において報告と論文発表を通じ評価を受ける方向を積極的にとらせ，斯学の世界的レベルにおいて活動できる資質をもつ研究者を養成することを目標として，指導している。

4. 主な研究テーマ

（1）経済・社会の空間編成にかかわる諸理論・諸概念，ならびにこれと関連する地理思想史： 均質な空間が経済・社会に包摂されることにより不均質な空間が編成されることを説明する。この研究の成果は，『経済地理学』ならびに『経済・社会の地理学』にまとめられており，海外の学術誌にも発表した。最近は，「空間スケール」や，オルタナティブな社会を目指すにあたって空間が果たす役割に関する研究関心を強めている。このテーマでの著者の研究は国際的関心を呼び，『経済・社会の地理学』は韓国語訳が出版される。

(2)香港の経済社会(特に都市空間の生産ならびに英国植民地政策とのかかわりにおいて。関連する中国の領域も含む):英植民地支配下における香港について，それを「組織化された競争」というフレームで分析する。2007 年の在外研究では，下記(3)の研究関心ともかかわって，香港の地下鉄建設と香港社会統合との関係という，現地の香港中国人研究者もほとんど取り上げていないテーマに取り組み，その成果を現在，英文で投稿準備中である。また，香港浸会大学の鄧永成教授と共編で，科研費の刊行助成により，編書『*East Asia*』を 2010 年に刊行した。

(3)公共交通と資本主義の調整様式: スウェーデンのボルボ研究教育財団(VREF)の資金供与によって始まった，豪州メルボルン大学に本拠を置くCOE プロジェクト(GAMUT，下記項目 B(c)参照)の日本における研究代表をつとめる。目標は，世界の諸都市を類型的にとりあげ，資本主義の調整様式と公共交通サービスの供給にかかわる政治・経済過程との関係について，総括的に解明することである。2010 年夏に行われた GAMUT のシンポジウムで発表し，GAMUT が編集した書物の 1 つの章として英文で公刊された。

(4)経済立地論(とくに中心地理論・地代理論): 上記『経済・社会の地理学』を参照。

(5)市場主義・資本主義に関わる理論の批判的検討とネオリベラリズム下でのグローバリズムに関する批判的検討，それに対するオルタナティブの探求: これについては，基本的な考え方を著書『グローバリズム』，ならびに『インパクション』誌に投稿した近著の論文にまとめた。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

Annihilation of Space, Ann Arbor, MI: University Microfilm International, 1986, pp. 532+xvii Ph. D. dissertation

『経済地理学』青木書店，1992 年，301 頁。

『経済・社会の地理学』有斐閣(アルマシリーズ)，2002 年，430 頁。(水岡編，水内俊雄・高木彰彦・長尾謙吉氏と共著)

Developing a Teaching Programme to be Designed for the University Mobility in Asia and the Pacific, 2002. 科学研究費報告書(水岡編，内外の共同研究者 8 名と共筆)

『グローバリズム』八朔社，2006 年，241 頁。

East Asia: A Critical Geography Perspective, 古今書院，2010 年，240pp.(鄧永成氏と共編)

(b) 論文(査読つき論文には*)

「現代地理学における『地政学』の復活」『経済』119 号，1974 年，175-196 頁。

「災害論」における公害認識:『社会的素因』の概念をめぐる覚え書き」『国土問題』13 号，1976 年，45-56 頁。

*「農業生産組織と農業経営:福井県丸岡町安田新・下安田を事例として」『経済地理学年報』22 巻 2 号，1979 年，29-44 頁(笠間悟氏と共筆)。

「『虚偽の社会的価値』の源泉について」『一橋研究』3 巻 4 号，1979 年，94-112 頁。

*「差額地代における競争の論理」『一橋論叢』82 巻 2 号，1979 年 8 月，211-229 頁。

*「ドイツ連邦共和国の地理教育改革」『地理学評論』54 巻 4 号，1981 年 4 月，177-195 頁。

"Some Fallacies in Agricultural Land-use Theory," in H. Ishida et. al. eds., *Changing Agriculture and Rural Development*, Tokyo: Maruzen, 1981, pp. 24-29.

"The Rationale behind Löschian Type of Central-place System," *Annals of GGAS, University of Hong Kong*, 9,

1981, pp. 37-49.
*「中国の農村市場中心地と現代化政策：広東省高鶴県沙鎮の事例」『アジア経済』23 巻 8 号，1982 年，59-75 頁。
「マルクス経済学における経済地域の概念」『一橋論叢』 90 巻 6 号，1983 年，797−818 頁。
* "The Development of Marxian Economic Geography in Japan," *Antipode*, 15 (3), 1983, pp. 27-36.
「香港における英系白人支配と"計画された競争"政策」『世界経済評論』1983 年，53-61 頁。
「マルクス主義地理学」（坂本英夫・浜谷正人編）『最近の地理学』に所収，大明堂，1985 年，221-227 頁。
*「地域産業構造と地域的不均等発展：アメリカ合衆国製造業による計量的実証」『一橋論叢』93 巻 6 号，1985 年，801-823 頁。
「経済地理学と資本主義的公共政策」『一橋論叢』 98 巻 2 号，1987 年，215-238 頁。
「アメリカのマルクス経済地理学の新しいフロンティア」『現代資本主義論』に所収，青木書店，1987 年，21-29 頁。
「中心地理論」（朝野洋一他編）『地域の概念と地域構造』に所収，大明堂，1988 年，200-221 頁。
「資本の空間編成と建造環境」『経済理論学会年報』25 集，1988 年，142-154 頁。
「社会資本論の基本性格」『一橋大学研究年報　経済学研究』30 号，1989 年，169-242 頁。
「経済地理学の理論的研究法」（上野和彦編）『地域研究法：経済地理入門』に所収，大明堂，1990 年，1-14 頁。
「欧米における最近の地域経済研究について：地域経済学の空間経済理論への展開」『地域経済学研究』創刊号，1990 年，27-37 頁。
「自然環境の社会への包摂：環境問題への経済地理学的研究序説」『一橋論叢』104 巻 4 号，1990 年，457-475 頁。
*「空間の社会への包摂と市場競争」『経済地理学年報』36 巻 4 号，1990 年，1-20 頁。
"Subsumption of Space into Society," *Hitotsubashi Journal of Economics*, 32 (2), 1991, pp. 71-89.
「香港：消え行く大英帝国最後の星」『歴史地理教育』498 号，1993 年，56-61 頁。
「経済地理学と社会地理学：統合された社会の空間編成論をめざして」『地理』38 巻 5 号，1993 年，44-51 頁。
「香港：新空港と“2047 年問題”」『世界経済評論』38 巻 1 号，1994 年，33-37 頁。
「ディヴィド・ハーヴェイ（20 世紀の地理学者たち④）」『地理』39 巻 9 号，1994 年，80-87 頁。
"From 'Regional Structure' to the Subsumption and Configuration of Space: the Heritage of Critical Geography in Japan," in *The Third Japanese-Polish Geographical Seminar on the Roles of Metropolitan Urban Areas in the High Consumption Society and Other Geographical Issues of Contemporary Japan and Poland*, 1994.
「英国人による香港植民地統治と空間の包摂 ： 序説」『一橋大学研究年報　経済学研究』35 巻，1994 年，105-206 頁。
「グローバル化とロカリティ：新しい留学生政策における一つの分析軸」『一橋論叢』114 巻 4 号，1995 年，734-752 頁。
「香港植民地支配のしくみと香港返還，工業化と高度成長，工業化を支える空間編成，独特なマカオのロカリティ，'アジアの小さなヨーロッパ'と日本」（歴史教育者協議会編）『知っておきたい中国 3：香港・マカオ・台湾』に所収，青木書店，1996 年，70-84・98-101・106-109 頁。
* "The Disciplinary Dialectics That Has Played Eternal Pendulum Swings: Spatial Theories and Disconstructionism in the History of Alternative Social and Economic Geography in Japan," *Geographical*

Review of Japan, 69 (Ser. B) (1), 1996, pp. 95-112.
「戦後香港の英国人植民地支配と金融」『歴史地理教育』565 号，1997 年，24-30 頁。
「地理の言葉で語り始めた地理学者たち：'人文地理学のネオ古典'レキシコン」『地理学評論』70 巻 12 号，1997 年，1-40 頁。
*「英国人植民地支配に内面化した空間の矛盾：香港の観塘開発における戦後工業化と官有地政策」『アジア研究』44 巻 1 号，1997 年，1-40 頁。
「制度化・物象化されたマルクス主義地理学―'地域構造'学派と経済地理学会の'終焉'」『空間・社会・地理思想』3 号，1998 年，18-27 頁。
*「香港のスクォッター問題における階級，民族，および空間―植民地を支えた都市産業体系生産への序奏」『土地制度史学』41 巻 1 号，1998 年，1-17 頁。
「'連続性'と'分断'の相克と超克」『現代思想』27 巻 13 号，1999 年，160-173 頁。
"A Tale of the Diverted Hare and Global Tortoise: The Tortured History of Critical Geography in Japan," in *2nd International Critical Geography Conference: for Alternative 21st Century Geographies*, Taegu, 2000, pp. 224-239.
「植民地統治下における香港中国人の教育―『組織された競争』による，英国人支配の正統化と工業労働者の生産」『一橋大学研究年報　社会学研究』39 号，2001 年，99-161 頁。
* "The Privatisation of the Japan National Railways: the Myth of Neo-Liberal Reform and Spatial Configurations of the Rail Network in Japan : a View from Critical Geography," In: *Earth On The Move, Is Transport Growth Sustainable?* Edited by Nicholas Low and Brendan Gleeson, Palgrave, 2003, pp. 149-164.（武田泉氏と共筆）
* "Japan: The Economic Consequences of the Fetish of Space," *Urban Policy and Research*, 22 (2), 2004, pp. 93-99.
* "The Critical Heritage of Japanese Geography—Its Tortured Trajectory for Eight Decades," *Society and Space* (*Environment and Planning*, Ser. D), 23 (3), 2005, pp. 453-473.（水内俊雄，久武哲也，堤研二，藤田哲史氏と共筆）
「空間，領域，建造環境」（水内俊雄編）『空間の政治地理』（シリーズ人文地理学　4）に所収，朝倉書店，2005 年，179-210 頁。
*「グローバル経済化のアジア，国境と階級関係の再構築―経済地理学からのアプローチ」『歴史と経済』187 号，2005 年，12-21 頁。
"The Demise of a Critical Institution of Economic Geography in Japan," In *Critical and Radical Geographies of the Social, the Spatial and the Political*, (Urban Research Plaza Research Paper No. 1) Edited by Toshio Mizuuchi, 2006, pp. 22-34.
「『場所』のふるさと，『空間』のふるさと―経済地理学から考える」（愛知大学綜合郷土研究所編）『ふるさとから発信する』に所収，あるむ，2008 年，32-50 頁。
* "Subsumption of Space into Society and Alternative Spatial Strategy," *Geographische Revue*, 10 (2), 2008, pp. 7-19.
「ネオリベラリズムとは何か」『インパクション』186 号，2012, pp.68-82.
* "Capitalist regulation and the provision of public transportation in Japan," *Transforming Urban Transport, The ethics, politics and practices of sustainable transport* (London and New York: Routledge-Earthscan) Edited by Nicholas Low, 2012, pp. 85-110.

* "The Dialectics of Space Subsumption, Struggle in Space, and Position of Localities," *Localities* 2, 2012.

（c）翻訳

『社会地理学』K. ルッペルト，F. シャファー他著（石井素介氏・朝野洋一氏と共訳）古今書院，1982 年。

『空間編成の経済理論：資本の限界上・下』D. ハーヴェイ著（松石勝彦氏ほかと共訳）大明堂，1989 年（上）1990 年（下）。

『都市の資本論』D. ハーヴェイ著（共訳），青木書店，1991 年。

「先進資本主義社会の建造環境をめぐる労働，資本，および階級闘争」D. ハーヴェイ著，日本地理学会「空間と社会」研究グループ編『社会-空間研究の地平：人文地理学のネオ古典を読む』1996 年，12-31 頁。

『メトロポリス』A. スコット著（石倉雅男氏ほかと共訳）古今書院，1996 年，322 頁。

「グローバル経済の危機と国際的批判地理学の必要性」N. スミス著，『現代思想』27 巻 13 号，1999 年，142-159 頁。

（d）その他

［事典項目］（*は，査読つき項目）

* "Radical Political Economy" 及び * "Japanese Geography" In *International Encyclopedia of Human Geography*, London: Elsevier, 2009（Radical Political Economy は単著，Japanese Geography は，齋藤麻人氏と共筆）

「空間」『人文地理学事典』，丸善 （投稿済，2013 年刊行予定）

［エッセイなど］

「ネオリベラリズムのパラドクス」『HQ』22 号，2009 年，52-53 頁。

「経済地理学」（「大人の学舎」No. 33）『One Hour』（大同生命）2009 年 12 月号，4-7 頁。（水岡監修）

「登山が求める，コモンズの復権」『HQ』 29 号，2011 年，40 頁。

［書評］

若森章孝・八木紀一郎・清水耕一・長尾伸一編著『EU 経済統合の地域的次元―クロスボーダー・コーペレーションの最前線』（ミネルヴァ書房「現代経済学叢書」94，2007 年），『関西大学経済論集』58 巻 1 号，2008，pp.59-69。

山縣宏之『ハイテク産業都市シアトルの軌跡―航空宇宙産業からソフトウェア産業へ』（ミネルヴァ書房，2010 年），『歴史と経済』（投稿済）

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

* "Financialization of Material Production: An Insight from H. Minsky", Panel Session 'Geographies of Financialization: Another Fixes or New Stage of Global Capitalism?', The Association of American Geographers, Boston, April 2008.

"The Planning of Mass Transit Railway under the British Colonialism in Hong Kong", The Association of American Geographers, Boston, April 2008.

* "Transnational Collaborations of Critical Geographers in East and South East Asia", The 5th East Asian

Regional Conference in Alternative Geographies, Seoul, December 2008.

"Variance by Scale in the Public Transport Development in Nigeria", The Association of American Geographers, Las Vegas, March 2009.

"The Capitalist Regulation and Provision of Public Transportation", 2010 International Conference "Sustainable Transport: Varied Contexts – Common Aims", GAMUT, The University of Melbourne, June 2010.

*"Space Subsumption, Spatial Struggle and Position of Localities," The 3rd International Conference on Locality and Humanities, Pusan National University, Korea, June 2011.

「英植民地統治下の香港における地下鉄計画と民族闘争，そして日本企業」アジア政経学会（2012 年度全国大会，関西学院大学，2012 年 10 月 14 日）

（b）国内研究プロジェクト

「言語と物質性からみた地理的モダニティの構築に関する地理学史的研究 」連携研究者（科学研究費補助金基盤研究（B），研究代表者　島津俊之（和歌山大学））（2011 － 2012 年）

（c）国際研究プロジェクト

The Australasian Centre for the Governance and Management of Urban Transport（GAMUT，豪州メルボルン大学を拠点校とした，スウェーデン VOLVO 研究教育基金助成による国際 COE プロジェクト）の日本研究代表（2006 － 2013 年）

6. 学内行政

（b）学内委員会

『HQ』編集委員（2010 年 4 月 － 2012 年 3 月）

大学教育研究開発センター「教育力開発プロジェクト会議」委員（2010 年 4 月 － 2013 年 3 月）

7. 学外活動

（b）所属学会および学術活動

The East Asian Regional Conferences in Alternative Geography (EARCAG)（Steering Committee Member, 2006 年より現在まで）

人文地理学会（2006 年より 2008 年まで協議員）

日本地理学会（2010 年より 2012 年まで代議員）

政治経済学・経済史学会（旧土地制度史学会）

アジア政経学会

Association of American Geographers

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

㈱昭文社『山と高原地図』モニター（2006 年より現在まで）

9. 一般的言論活動

「樺太/サハリン研修事前学習」中央大学附属杉並高等学校にて講演（2008 年 9 月）

「私たちを直撃したアメリカの住宅ローン」（調布市男女共同参画推進センター主催「世界を知れば日本がわか

る」講座にて講演，2009 年 6 月）

「昨今の激動する国際経済を読み解くコツ」（千葉共同サイロ㈱主催「チバキョウカレッジ」にて講演，2009 年 10 月）

「グローバルな政治・経済における今日の中国」（AIESEC 一橋大学委員会 中国プロジェクト主催講演会にて講演，2010 年 5 月）

David Harvey とニューヨークの Occupy 運動に関し，TBS ニュースバード「ニュースの視点」に出演してコメント。2012 年 9 月。